

活性化の基本方向

活気とにぎわいのある中心市街地にするには、魅力あふれる地域づくりが必要です。

このためTMO構想では、中心市街地の活性化を商業・サービス業の問題に限定しないで、町民生活の基盤整備や地域の自立にかかわる問題として広くとらえています。

①町民の生活に必要なものが中心市街地にそろっていること
②地域住民すべての顔が見え、目が行き届くこと③町の内外との交流のなかで独自の個性をもつこと④町民自身の手でまちの運営が進められること①という概念で中心市街地の活性化を図ろうとしています。

事業計画では、個店の再生を第一に掲げています。個々の商店が商品管理の強化やサービス向上など「町民が寄りたくなる店づくり」に努めます。中心市街地全体では、駐車場の確保や地域資源を活用した商品づくり、空き店舗の活用、イベントの開催などにぎわいと新たな魅力づくりをしていきます。

街路灯を活用した景観づくり、シンボルキャラクターを利用したイメージアップ、街並みの整備や商店街のセットバック、歩行者スペースの確保などを検討し、その実現を目指しています。

住みよい町の実現

商工会では六月二十日、商工会員と中心市街地地域の住民を対象にTMO構想の説明会を開きました。七月中に具体的なTMOの方向を決める住民参加の組織と、事業を実際に企画・運営する組織が設置される予定です。町民の組織への参加も、公募により決められます。

中心市街地は、町民に快適で豊かな暮らしを提供する場であり、地域住民や外部からも人が集まる交流とにぎわいの場としての役割を担っています。

中心市街地の活性化を町全体の課題として考え、商業者とはもとより、自治会などのコミュニティ組織や町民、行政が協力し合い、もつと魅力のある「町の顔」をみんなの手でつくっていきましょう。

まず、住民が暮らしやすい街づくりを！



消費者

TMO構想策定委員
柴田幸榮さん
(町婦人連絡協議会長)

TMO構想会議に参加し、若い店主さんたちが「うちの店はどうですか？」と進んで自分の店の良い所、気になる所などの評価を求めている、とても力強く感じました。

いやってみたい人に貸し、一カ所でいろいろな買い物ができる。役場の移動コーナーが設けられ、健康・福祉相談や生涯学習の出前講座が受けられる。幼児の遊び場所もあり、親子の憩いの場所にもなる」次々とアイデアが出され、期待が膨らみました。

商店街がなくなると町民の暮らしが守られなくなり、商店、消費者、行政が共に意識し、TMO構想を進めていく必要性を感じました。

町、商工業者、地域住民が一丸となって



推進役

TMOくずまき代表
近藤慎一さん
(町商工会長)

葛巻町の中心地域は、古くから行政や医療、金融、商業等の施設が集中し、町の拠点として重要な役割を果たしてきました。

M O構想を取りまとめました。中心地域の活性化に向けた活動を展開するにあたり、町、商工業者、地域住民が一丸となって楽しく、もつと面白い事業になるように今できることは何か、さらに検討を重ねながら進めていきたいと思えます。

しかし、時とともに環境も事情も大きく変わり、かつてのにぎわいがなくなってきたことは町民の利便性を損なうだけでなく、町の発展にも大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

経験豊富な方からは知恵を、若い方からは活力と将来の夢を、町民皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。